

繪本豊臣勲功記

三編  
三

遠13  
2209  
23



門入遠 13  
冊 2209  
卷 23

繪本豊臣勲功記三編三之卷

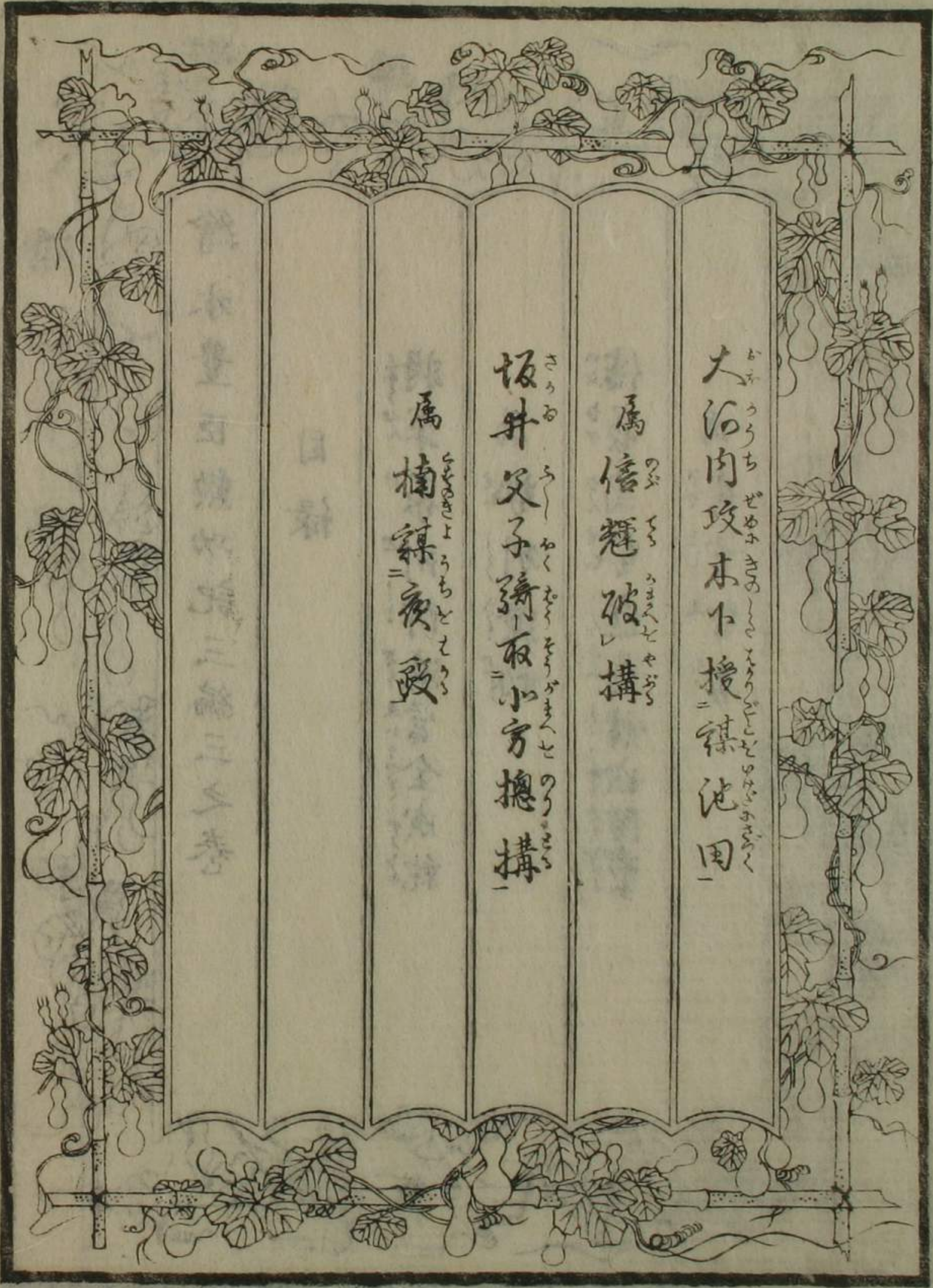
目録

將軍家所造營全成就

屬 堀別強動

信長南嶽進發諸城防斬

屬 秀吉智勇



大河内攻本下授謀池田

属信輝被搆

坂井父子騎取小方搥搆

属楠謀夜政

繪本豊臣勲功記三編卷之三



江戸 八功舎 徳水 刪補

將軍家所造營全成就 属勢別騷動

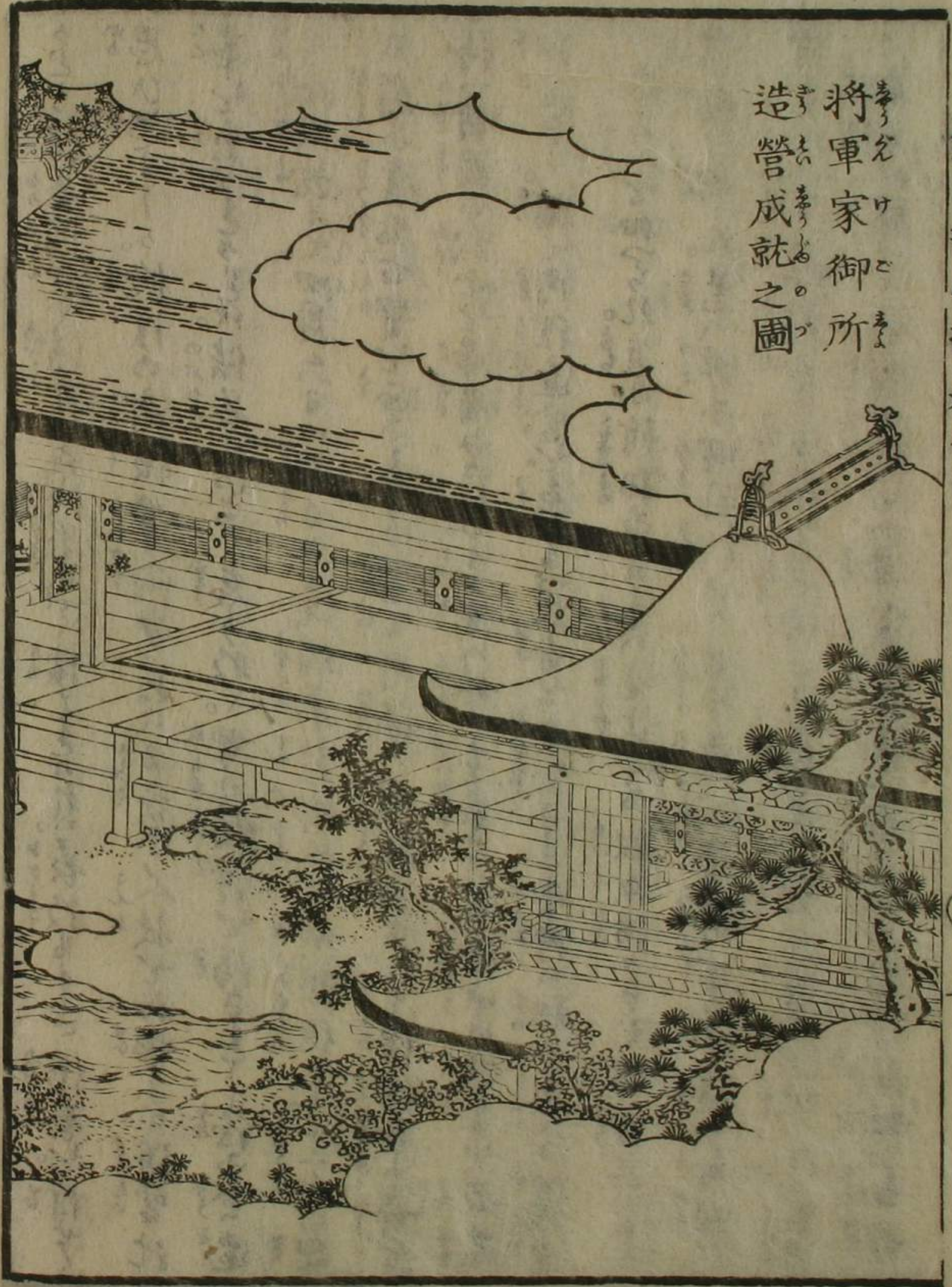
土類... 時の家室その位を失ひ... 然る織田家... 將懐突して危や大事と見へり... 治みさしゆ... 流言區々... 勝家信盛... 浅井の... 我意小つ... 此後...

一也。と初め、あつらひて朝を實小も。既小命出さるんとて、秀吉所くうも  
 愕き、憤小を状しけり。今あらためて、淺井の名士を、所礼、明ある、响の長政  
 性急の壯大將多り、怒て二心を生じ。君素淺井と親を、あつらひ、別武士を  
 諸漢、糸都の往來を、心寧く、たぬらんがた、先あらむや。所懐、ハ、さ、得、助  
 ぐら、是、武の小事、小すつて、大事、礼、妨を、勾引さん、傳を、以、後、慮の至あり。ま、つ、遠  
 遭、ハ、ハ、氣さ、所、換、扱ありて、怒、之、一、殊、小、昨日の、發、動、ハ、自、軍の、名、士、所、以、て、  
 小、淺、井、家、の、武、士、を、お、り、離、能、さ、さ、り、より、率、起、ま、り、所、以、明、あ、ら、ば、自、公、也、も、  
 そ、色、く、の、所、外、を、人、に、あ、ら、む。怒、ま、る、時、バ、毛、を、吹、て、襪、也、腫、ま、の、世、話、小、を、死、欲、  
 這、義、を、所、賢、意、願、や、と、諫、め、ま、あ、ら、ま、り、る、小、より、信、長、小、も、厥、意、を、悟、ら、ま、草、  
 て、淺、井、の、陣、へ、使、者、を、遣、し、別、心、を、た、し、と、重、贈、ら、ま、懇、懇、小、を、信、申、じ、く、  
 長、政、も、別、使、を、遣、ら、ま、諫、言、を、た、ま、と、申、述、ら、ま、外、面、ハ、ニ、事、小、治、じ、

うとも、信長、内、心、小、淺、井、を、伐、果、て、く、憤、ま、ま、長、政、も、ま、信、長、を、諫、せ、く、  
 思、ひ、起、ま、り、修、理、の、所、役、等、困、ら、ら、ぬ、日、夜、小、人、技、を、加、勢、し、て、遠、營、に、  
 軍、を、急、ぐ、ま、ま、信、長、も、い、く、急、り、如、く、勢、力、精、神、を、竭、さ、ま、一、終、小、急、速、  
 功、成、然、と、て、四、月、六、日、の、吉、日、を、ま、將、軍、新、所、前、へ、所、移、使、あ、り、上、中、の、規、  
 武、藏、小、奮、風、古、實、を、心、さ、ま、り、翌、日、所、祝、の、所、終、あ、り、て、そ、後、信、長、下、陣、を、  
 傳、一、諸、國、の、武、士、を、歸、國、に、し、め、ま、身、ハ、姑、く、在、京、せ、ら、ま、洛、中、の、政、事、を、於、遠、  
 沙、汰、り、總、て、内、程、遠、營、を、急、ぐ、ま、つ、れ、旨、を、命、出、さ、ま、奉、行、ハ、細、の、あ、り、小、妙、頭、寺、  
 日、教、と、人、を、加、つ、ら、れ、直、小、所、細、あ、り、ま、ま、上、小、も、歡、感、法、ら、ま、諸、綱、の、ま、ま、も、  
 愁、眉、を、開、れ、是、ハ、單、小、所、司、代、を、本、下、孫、吉、高、秀、吉、が、奇、絶、の、智、謀、を、  
 先、づ、じ、て、不、日、小、教、弟、の、金、源、を、集、得、ら、り、故、あ、り、と、諫、言、外、小、感、愛、ま、し、く、遂、  
 小、敵、國、小、建、く、秀、吉、と、い、ふ、者、ハ、未、嘗、有、の、武、士、あ、り、ら、る、と、不、禮、の、物、能、



將軍家御所  
造營成就之圖



ゆりけるとゆり信く 彈正忠信長ハ五月十一日京都を發是耶一と云ひ  
 濃列波車一掃さつた。遠道ハ来下も一我小坂國のよしを告られしをも將  
 軍家と細めあつせ禁中よりも今志をらる京都靜謐の朝を思ふを殘し  
 安んじ台命なまは是非なく秀吉を當えらまたり。其を圖き茲小中二伊勢の  
 國同小島の新中ノ屬て。希有なる發動を出來りぬ厥を仔細小輪まこ六  
 頃ハ同氣最此物具教入道の弟小本造の家を相續せし。本造中將具正  
 との者あり。其子を左衛門佐長正とのふ然も小具正の養父中將俊茂は  
 長男具康小嫡男子ありりるが小島は胤をりる。本造の家を継ぎし。傳  
 心中大小しを恨む。我こそ本造の血脉なるとおひひながらも詮方おけまは  
 遠小法師とあつて源城院小住職也。此僧也智くましく亦も又勝を  
 たり出家形からも勇猛かく。槍刃弓馬の技を好む力量も拔群ありれば

事出来よし厥响こそ遠信をして本造の家を與さんと親居り又本造は  
 老后柘植こそ齊方兼つとのふ者ありこそも具正長正小坂城をとりてまは  
 せの織りうらん流門一益具小縁故を所出いよれ方便こそ出来こそて柘植  
 こそ齊方兼つと密使を遣し。北島家の政事善へま國將小滅びんとを  
 門々速く遠慮を遠らし子孫相續の計候をなまこそ肝要なれ計候  
 小ハ織田家小希次。將軍家の所自方小泰はよ六名ハ安途して  
 小坂城昌相遠きと勧めりる小をこそ齊方兼つも頑てより思起りし不あり。  
 齊く流門が勧め小随ひ織田家小希次。將軍家小希將佐重をみせ  
 小ハ自家も我身も安穩あらんと思定めて使者小返事し彼源城院小相  
 續しる小敵を同心せし。遠信をして使さる。流門が伴へ遣し。同善の  
 よしと善く。一益うけりる。亦秋び餐應をく猶子こそし。遠信をこそ

て苗字を興へ龍川三浦名衛一雅とぞ号らせり。あまふよりて柘植と  
 龍川と一志と許合。然して石計を廻らし木造父子を屈服させ  
 素名の城へ透引し。龍川一巻小舎面信長の自方とありたれば具  
 敷入道大少将。獅子心中の忠をりて。如右少将置さし。木造父子  
 と許代を極くと國司大將。小造へ推進せ。單騎急小攻起り。小  
 城の中を破りてより。織田家の後援を頼り。此も臆せ。防戦を  
 由へ。獨敗更小分とさうり。這响。龍川使者をりて。信長へ進軍し。  
 龍川時節を告り。若さうり。進軍の準備し。小より。國司の軍勢その  
 風聞を漏りて。速小人數を遣揚し。信長も軍馬を發し。至りて。  
 一應木下と呼返さんと。候合。さる。不疎。小長。過秋。小至り。由へ。木下が  
 交代の將士とて。織田。新。長。元。信長の七男。佐久間。右。衛。尉。村。井。氏。部。臣。

豊臣の地本  
 龍川の地本  
 龍川の地本

林依政守。河田所之助。遠五人と上洛せし。將軍家。小。此。旨。と。言。は。せ  
 し。久。森。くも。義。昭。公。秀。吉。小。別。情。を。情。ま。せ。る。と。是。能。け。ま。は。降。國  
 の。降。別。と。賜。ら。ん。と。て。藤。吉。舟。舟。將。軍。の。河。津。進。り。出。さ。ま。水。く。ま。系  
 の。勤。勞。清。う。ら。ま。藤。吉。舟。舟。中。靜。體。せ。し。降。を。双。の。大。功。と。謂。つ。べ。し。よ。つ。く  
 江。別。長。演。城。小。一。百。貫。地。と。活。く。賜。ら。ん。と。て。意。意。あり。然。と。も。木。下  
 者。吉。舟。舟。望。く。降。退。し。て。ま。つ。り。降。別。と。言。は。せ。し。將軍。家。旨。よ。り  
 河。津。小。波。舟。舟。へ。余。誠。ま。さ。る。と。藤。吉。舟。舟。降。退。し。て。信。長。の。河。津。へ。出。ら。ま。時  
 織。田。家。こ。も。と。訊。さ。ま。た。ま。ふ。將軍。家。河。津。内。意。あり。て。長。演。城。と。脱。し。て。死。む  
 命。出。さ。ま。ま。ひ。し。と。何。ゆ。降。退。あり。つ。ど。不。審。う。し。と。宣。へ。藤。吉。舟。舟。護。へ。ん  
 忠。臣。の。二。君。小。仕。へ。と。秀。吉。不。肯。小。仕。へ。と。も。斬。量。の。降。は。う。け。た。ま。さ。り。ぬ。我  
 君。の。新。恩。演。城。の。像。く。日。々。月。く。不。祐。り。て。人。數。も。多。く。率。と。ま。ま。り

石後の名會まで遣はれこと更ふれりきよハ將軍家の御恩を戴きん  
た六二君小はらふ小ひらそをや。然小よりて辭退せしめ。別小飛落もこれなし  
と口三意潔白小を吐せし。信長まをく感懐し。多ひ意替ら。末下  
る智勇拔群のこらむ忠信を欲の名士と。あまきび杯揚せられく  
目將軍家御恩の發意を。御奉せざるも。七禮あり。こやく息命小ま  
ぐらぐら。と重し。これ然して後。將別出馬を辭致ありり。

信長南勢進發諸城防衛。馬秀吉智勇

獨者ハ招ぎまじも世安集り。徳者ハ説されども。世人帰る。仁と智とハ是  
が業あり。信長伊勢を攻る小隊にて。本道のまを起りし。鑓入のりて。助く  
り。時小本下言法を。原兼伊勢の小高ハ公々より出。一人小して武士  
の家小ハあらさる。然ると近來國軌ハ交乘して。朝宮の貢税も更ふ勢めを

漫小弓馬北道と退ども。今又將軍小も帰向せむ。遠等の罪を免され。征伐し  
たまへん。澤こそ理なき。然ども。數代の國司なき。諸代の臣家  
六七百もありぬ。渠依四方小防なき。容易御本意。逆ごらん。  
小。子の君法御威光より。信國の株守依を怖懼ご多ひ。然して  
利害を競ふ。帰後なき。め玉ふ澤然と。と勅められ。信長  
小も強小も。かかき。尾別濃別。別勢小。こは。依の大軍七。多有余勢  
輪輸より。招集め。同來八月。中の十日。信長城と進發せ。れ。羽音  
兼名小。若陣ま。く。瀧川。たを。推挙せり。て。本遠。又。子。孫。小。植。と。書  
た。出。の。瀧川。之。録。書。信。と。弱。見。な。さ。し。め。こ。後。軍。の。分。隊。し。ご。多。ふ。ん。瀧  
川。が。軍。勢。小。圍。の。一。黨。を。當。副。て。森。と。上。野。の。兩。城。を。懸。守。せ。織。田  
掃。部。助。小。工。藤。法。と。加。増。と。今。井。徳。居。を。威。さ。し。め。諸。信。長



の總軍ハ大河内と當り推進さる。然とも軍勢と急小進めを本遠  
 城小一島日ハ遠尚ましまし。是秀吉が初め小よつて諸軍城の伊勢  
 武者小信長の威光と志光をこき。城を棄てて降参せしめん。計策  
 されば。七万有金比大軍と山林郊野小元満させ。隊伍と礼を列  
 陣せしめ。驛令嚴しく。初らしむ。礼坊狼籍の態を。進退さる。ら  
 手足の像し。敵軍これを見聞し。この形を。石門潰城するも。遠大  
 軍と拒抗んこと。及び。と。恐臆しけり。然も。に。國司。小富。目。六。教  
 入道。不知。故。同。新。國。司。具。房。既。小。信。長。大。軍。と。率。列。大。河。内。的。進  
 る。よ。と。所。と。ひと。く。頼。く。初。ら。し。防。禦。の。分。探。ま。大。河。内。の。城。中。の。國  
 司。父子。と。大。將。と。して。二。男。長。野。二。郎。孫。教。ま。一。族。の。勇。之。少。の。森。本。飛  
 弾。子。を。子。孝。市。郎。方。徳。氏。部。少。輔。林。備。後。ま。子。孝。新。之。也。この。外

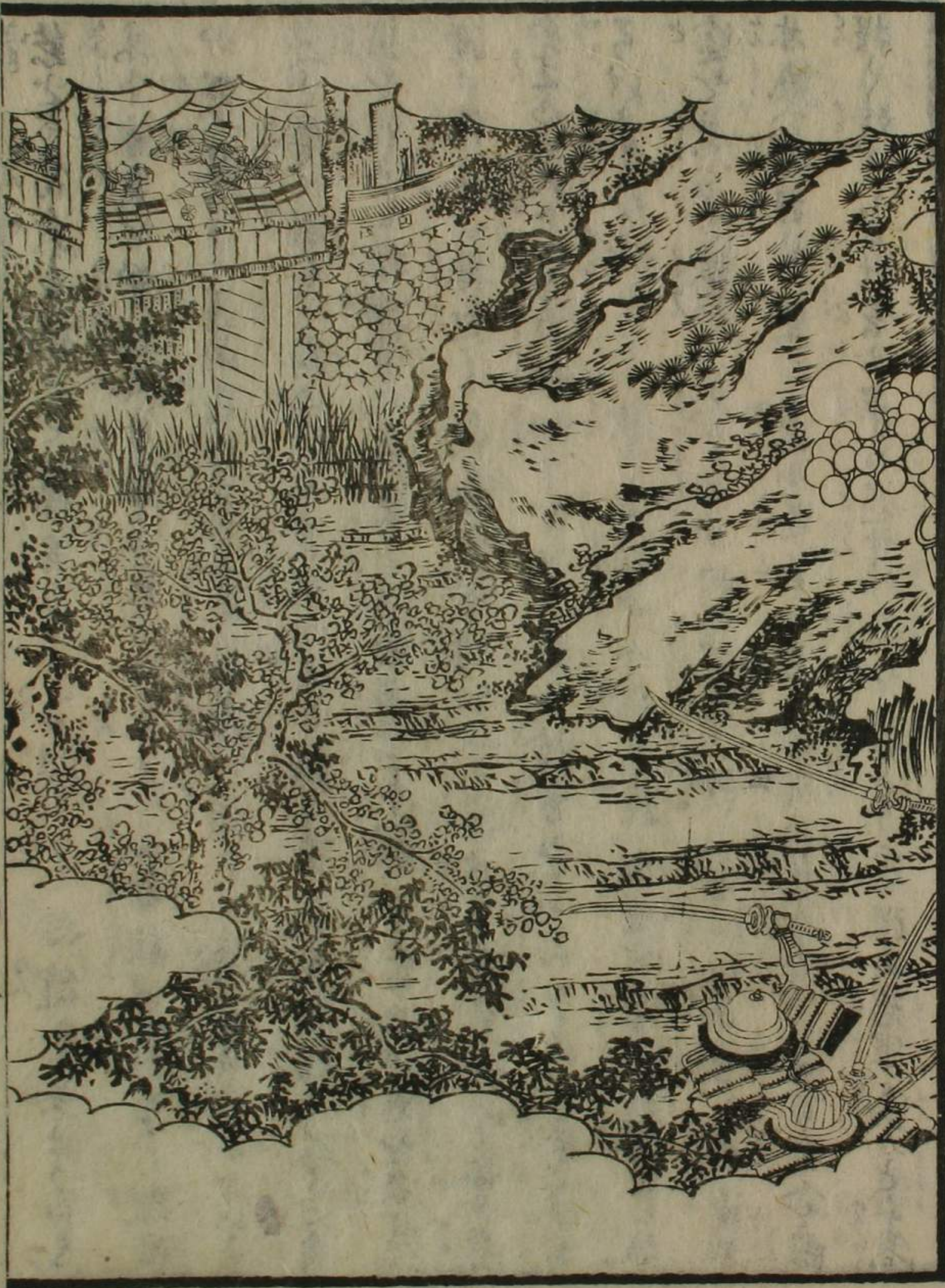
とヤ。屋。尾。石。見。も。同。共。た。也。同。右。近。將。監。水。谷。武。部。大。輔。同。者。次。郎。安。保  
 若。狭。も。同。武。部。少。輔。同。大。藏。大。輔。同。た。門。同。彈。正。左。衛。門。同。た。る。元。同  
 次。郎。市。郎。又。之。部。磯。田。彦。右。衛。門。助。と。り。佐。々。本。源。也。同。又。左。衛。門  
 の。若。右。衛。門。山。本。左。馬。助。長。野。九。郎。扑。木。集。人。日。置。大。膳。玉。井。等。部。軍  
 合。た。也。稻。生。勘。解。由。水。野。勝。次。郎。防。衛。彈。正。大。内。山。但。馬。也。將。と  
 して。南。五。郡。の。軍。兵。軍。教。と。して。軍。城。せ。り。諸。指。城。の。諸。將。と。謂。は。令。徒。山  
 少。の。奥。山。常。陸。外。上。野。の。城。少。の。孫。方。將。監。阿。坂。の。城。少。の。大。宮。入。道。一。子。同  
 苗。大。之。丞。岩。内。城。少。の。岩。内。右。衛。門。八。田。正。城。少。の。楠。七。郎。左。衛。門。の。も。防。禦  
 の。守。衛。嚴。く。鐵。田。勢。進。め。微。塵。小。せ。んと。行。津。を。香。を。禰。と。い。ひ。も。唯  
 大。軍。に。糧。食。と。爲。す。教。日。小。及。び。進。來。ら。む。と。ま。小。より。て。諸。城。の。急。心。漸。く  
 恐。怖。し。て。退。屈。さ。る。俸。あり。な。れ。時。分。り。と。鐵。田。信。長。使。將。と。諸。城。を

さき利解せりつて初めより従ふも背くもあり。有るは返着せざるもあり。
 中ノ龍ノ行坂の城を大宮入道合忠が同嫡子大之丞景行同九之衛門
 仍りも不敵の勇士あるは僅千余の名士を従へ軍謀をとりてしむ。
 信長の軍と蟻螻の像く見侮り。敵進来らば同小東西親さんと
 城下小立り津眼寺を致場悪しとて焼拂ひ。敵を逐つと待蕙ら。
 這响織田の使者来りて利害を説ども更子諾せど大子罵て借けり。
 由ら先來勢北の徳兵衛軍ハ織田の旁渺小隠て直地小降来りしと
 ども。勢南の武士々忠義を告とて一命を惜まぬ。いかど大軍の威を
 振ふともみどろ是式小怖るらんや。果く軍勢を向らばよ。研家秀りさん
 こそ準備の機と察し。我と思はん人あらば體に礼を様とせよと大
 言声小言もつら。使者を返く言らば。信長これを所を以凍然と

して怒と背し。悪き大宮が流るる。を儀多る速小。城ハ推進微
 塵小なり。對凝も軍公と塵小せよと指揮ありしを。秀吉も信と推
 止免信も大軍を怖るを憐れ返答つる。進兵小十分怒と起
 させ。女二をこ小攻る圖を計り。敵んとするあり。渠條と疎忽の軍
 せむ。船らも敗れをさきりけむ。姑く脱氣を拗きまると。練れ重を
 小信長もわく怒を結ぬ。西三日を過し。りしが。や邊屋也
 時分ならん小。一攻をて敵を多て。七万余騎の總軍を。吐小蘇波につく
 らしめ。天地も裂破を威嚇す。阿坂北城ハ推進し。响小同月廿七日。
 坂攻の先陣ハ木下秀吉。明智先秀。坂井政尚。依々成攻。只一橋小進
 たりしが。城小僅一千余人。中ノ小大宮入道ハ二百余人。小て本丸を圍め。
 子大之丞。二男九名。衛澤大炊助。河合之助。名清。櫻尾。信人。横山。九郎。

津田吉部よしのぶなどの勇士ゆうし八百余人やっぴやくにんを一隊いちたい中ちゆうに惣門そうもんを固め進しんを  
 近くちかく匂におひ引ひきて時分ときぶんはよと塙はら上のぼりより炮はう矢やを放はなつこと電でん雨あめは像ざう一いつ申まを  
 も大宮大おほのみや之の聖せい系けい行ぎやうの弓ゆみ御ご之の双すうの子こ練れんるまは摠門そうもんの塞さい據よ小こ露ろ出し法はふ小  
 過あやる大弓おほゆみ小こ大箭おほやを臂ひ下くだりて推お上のぼり小こ鼻はな足あし小こ身みを當あ固こめり小こ矢や奮ふんひ  
 大言おほごんおげ頑がんく準備じゆんびをしとる伊勢いせ船ふね治ち排はいへり敵てき少せうく頼たの持ぢ稟れいをとり  
 と體たいも果みぬ小こ截せつて放はなて射せ進しんし騎馬きま武者むしゃが胸むねより脊せきを貫つらぬて若わか  
 こもいそぎに射あ落おしり是こゝと軍いんの物ものをとりて馬うま股また隔へちり差別さべつをとりて射あ  
 引ひ責せ射ある後のち小こ一いつ矢や小こ二ふた強つよの射あ徹てつをとりて徒あ矢やの更さら小こ矢やをとりて進しんをとりて軍  
 ありとりてこも遠とほ弓ゆみ精せい小こ辟へき易いくと前まへへ出でるとりて取と次つぎ小こありて見みるとりて意  
 射あるとりて木き下くだ秀ひで古こりも危あやき軍いんを避さけり勝かつとりて利りを獲とりて極たぎめり進しんをとりて軍  
 くりもの眼がん茶ちや自軍じいんののちめれ驟さうとり大おほ小こ怒いかりて正ただ射あ進しんをとりて進しんをとりて軍

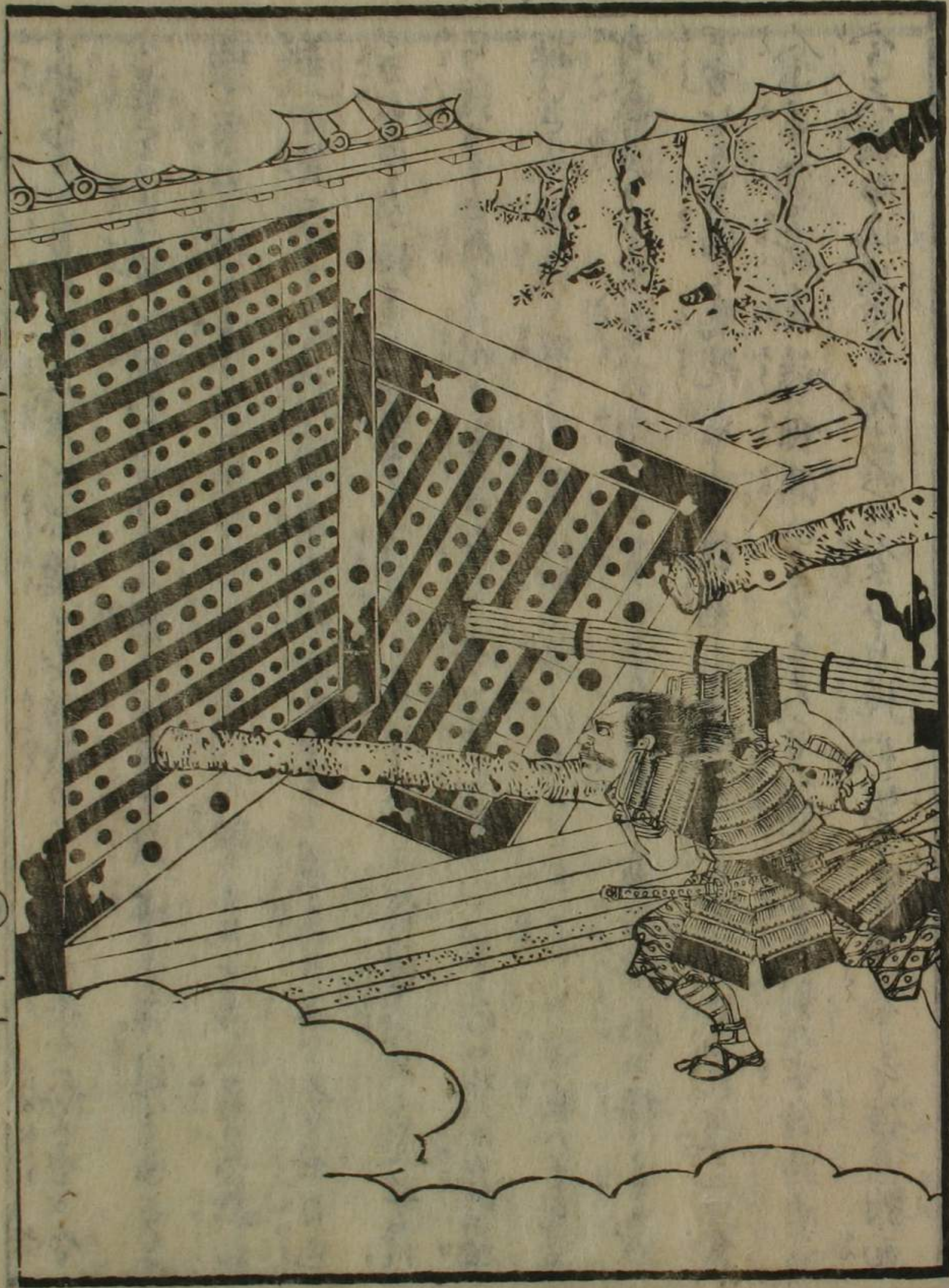
振ふる舞まる。敵てきをとりて小こ強つよくも僅わずか小こ一いつ人にんが射あ出しをとりて矢や小こ怖おそまりて進しんをとりて傳  
 やあるとりて自これ他たとも小こ武ぶ士しをとりてかりとり恥ちをとりて顔かほをとりて笑わらふとりて木き下くだがとりて  
 試こまり。我われ小こ續つづありや名な軍いんと馬うま小こ拍はをとりて突つて敵てきをとりて諸しよ士しをとりてこも  
 を視みるとりても意あれはらいやれのとりて勝かつとりて心こゝろ利りを獲とりてわらいとりて容易ゆい小こ進しんを  
 ぬ木き下くだがとりて勢せいをとりて続つづむとりて必かなずも攻せむとりて落おつとりて所ところをとりてありるとりてや進しんを  
 と一いつ回かい小こ橋はしをとりて勵ありて推お極たぎめり射あも撃うちも事ことともせず。養やう馬ば小こあり  
 て攻せめり城じやうをとりて頑がん丈ぢやう小こ怖おそまりとも木き下くだがとりて大おほ軍いんをとりて防ぼぐとりて惘ぼう然ぜんとりりて休やすむ  
 見みるとりて大おほ之の聖せい系けい行ぎやう正ただ射あ小こ拍は揮ひをとりて木き下くだをとりて既すとり瞬しゆん身み悪あく射あ敵てき將しやうのとりて拍  
 揮ひ風ふうをとりて渠き一いつ人にんがとりて知し小こよりて遠とほ據よ既す小こ破やまんとりて先まや渠き奴やつをとりて射  
 一いつとり例れいのとりて鋒ほう矢やをとりて當ありて皆みな卷ま過するとりて引ひ後のちりて木き下くだ目め巻まくとりて截  
 て放はなつとりて矢やと一いつ小こ弓ゆみ弦げんの中ちゆうより拏あ衝つと切きりて不ふ思し後のちとりりて思おもひ



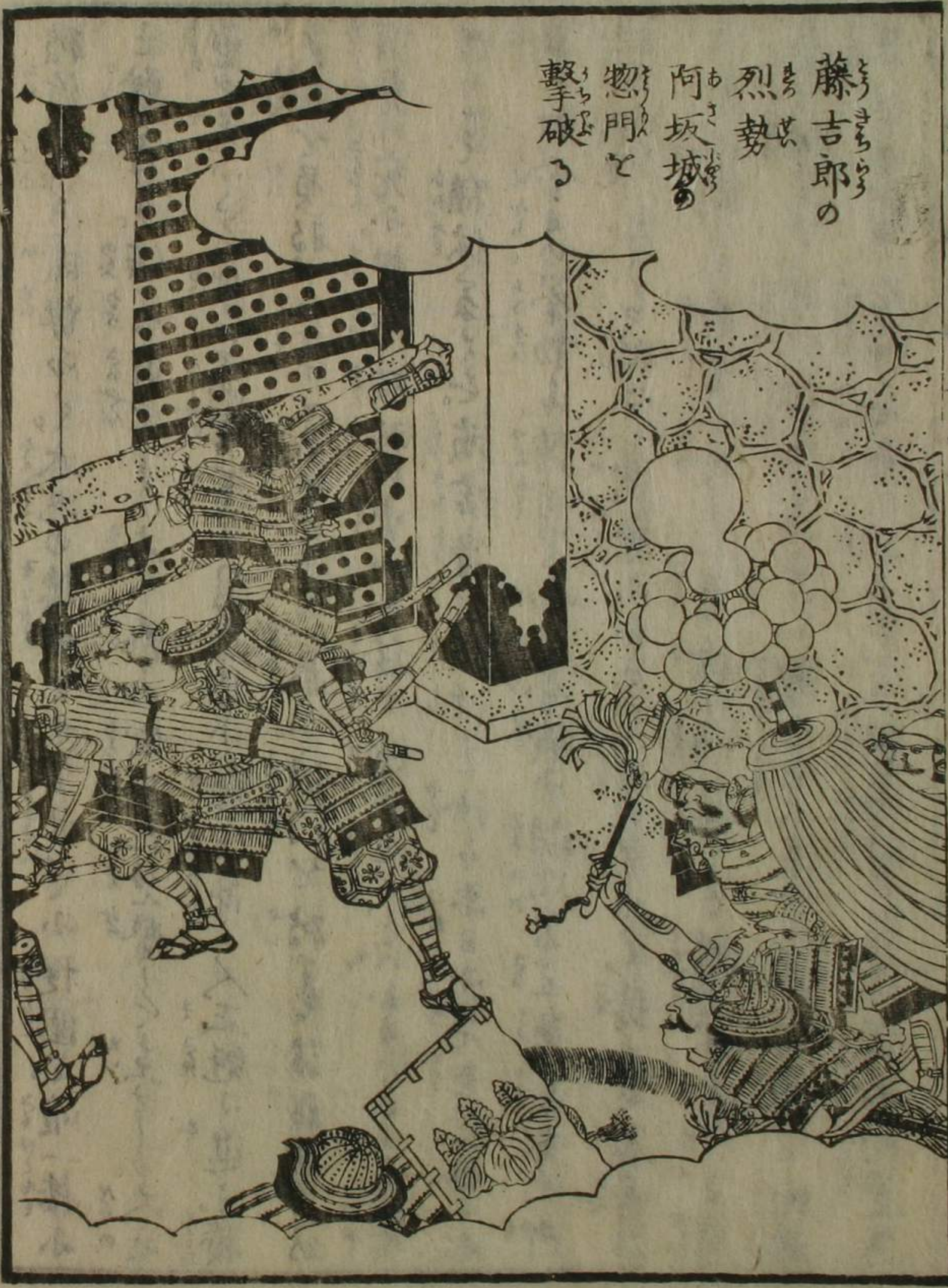
阿坂の  
城攻め  
秀吉  
勇氣  
一翦と試て  
諸士と  
懸す

然ども當夫を誤つて藤吉高が守腰小軍摺健く立ちうけり。  
 本下も矢と撃抜て自軍の志士小舟とて曰各款矢とよく視よ  
 や。箭束はまこと小長けまごも手弓懸ハ弱して秀吉が身小つと  
 ひと嘗て痛むこと覺て是武の矢小弱る事久。速攻招や人と自  
 軍を烈まし指揮しりまバ本下堂の勇士達獅子奮迅の怒を散し。  
 備が像く小接起し久。遂小惣門を撃破喊々声々礼入を寨樓  
 の上ゆ大之亟弓法切しと怒まごも。詮方なりまを侍と走らせ智  
 弓に集ると待やど小敵も城中小礼を招。城を八方へ斬てし久。  
 途と失く散礼を大之亟も朽惜られど。防々方城のあらまを。遂小  
 本丸へ還投り。本下急小返暮るま。城を八百余人のうち。九百人を敵  
 捉く残ると百礼志士軍も過すハ城を蒙り。遠際小惣軍を以くとま。

被竹の像も威勢少く。本丸の惣構と十重廿重小提圍と。唯一接小  
 と馳まけり。信長家者より本下城の城攻を覺せしと立せし大之  
 亟が矢小つら軍の落命せざるにちし小藤吉高一人正魁小進と勝  
 矢を射負射り事ごもせど一審小城門を破りて。城を攻る。その  
 所見ハ宛小樊會項羽の勇小も備。強小九人といふのいま下と感賞  
 せらまを猶休るまを。看言高と眼峰を汝を平日小危急と好まご。  
 然るに今日の挙動を傳所する和田合戦小朝比奈之弟義秀が所  
 所の惣門せらち破りし武勇小かさく劣らざるを。儲あを義秀は  
 名を稱例して。秀吉と号りし意。強小明らげると稱嘆せられ。自  
 薬を賜る。姑く休息まごまじ。懇小命らまご。本下護んで所禮  
 重くまご。今日之を謀の軍をせしも。柳思枝のゆあり。遠城斯量乃



藤吉郎の  
烈勢  
阿坂城の  
惣門を  
撃破す



小勢少く自軍の大軍を恐慄せど防戦のしこと卑小大之臣が分  
 小過るる弓機を恃むるなり。然るに自宮村跡を以て進みしに  
 國を察量急小進んで作ひしが果て門を破りてい。そもくも矢は我射  
 第一の益益少く。神代の傳の法式をとり。羅布りたは。大之臣自己  
 力のある小任せく相應ざるも矢を用ひて。小精神疲るのを知らず。  
 弓弦もまた断て。國々小臣の疵を浅く指て痛もつら。心は傳小指  
 揮し。張強く攻て。所賢法如く騎破ていと。粟上り。小信長ハまをく  
 所感は。第一の功とぞ賞せらる。然るに。織田勝勝の像。九の  
 四方をうち圍む鳥銃者。放蕩し。城を攻め。小撃減され。僅に百餘  
 人。小勢を断る。籠城。傳ひ。と。大宮入道。子息。小對ひ。不。防。所。の  
 今天期あり。決ても死すべし。命から。俺們の。降。信長對面

あり。胸。跳。蕩。く。刺。殺。さん。といふ。大。之。臣。も。是。と。し。案。據。小  
 登。く。敵。中。へ。降。参。事。を。言。達。し。信。長。こ。も。聞。く。信。長。こ。も。聞。く。奴  
 軍。が。奉。止。る。報。殺。の。降。参。事。を。言。達。し。と。宣。ひ。る。と。昭。智。光  
 秀。謙。云。ま。ら。く。旁。僅。大。宮。が。不。義。不。獲。當。罪。殺。す。べ。し。い。あ。ら。ぬ。と。  
 備。此。軍。を。所。免。さん。此。外。の。城。小。籠。守。倫。輩。必。死。と。り。て。防。戦  
 ま。さ。し。然。る。も。軍。難。義。あらん。小。姑。く。城。を。法。降。参。を。赦。され。諸。城  
 也。早く。帰。服。ある。こと。を。要。み。と。速。く。信。長。も。遠。義。小。隨。以。願。を  
 料理。んと。す。玉。ふ。と。本。下。透。て。大。宮。父。子。の。降。参。の。こ。も。真。實。小。あ。る  
 處。ら。ば。斯。く。ま。を。た。ま。へ。と。云。信。長。も。同。心。あり。て。降。参  
 せ。免。す。と。い。ふ。旨。を。送。り。ぬ。大。宮。入。道。大。之。臣。依。心。中。小。笑。と。會。ふ。と。百。餘  
 人。降。参。し。る。と。本。下。透。を。受。取。て。入。道。父。子。と。會。ふ。と。會。ふ。と。一。個。も。小。引。合



秀吉の神察  
大宮父子が  
害心と識  
殺さむ





させ大將の所陣へ伴行んと罷り関せ父子はりのせさるる小舟小舟の御り  
 大和の國へ追放を。渠候を後せ擧起て國境まで到りりるが遠き味  
 せらるる人とを大宮父子の案小相違。謀戮の期小なる响天せ作く  
 歌とて曰實小信長ハ名將なり。備俺們小對面ありや。やう安穩と  
 しめんや。そ様を悟りて我候父子小面會さる。緯の賢さよと大い叫んで  
 伐せり。明智光秀心中小本下が計ひを添く。取らるる衆小向ふて朝  
 秀言ふかとの智者より大宮父子を誅せ。事定て大い取小對面は  
 せ。勝りしゆ小やあらん。それハ私の行儀なり。自己が恨も小最惜き。勇士  
 と誅戮せし衆。誅は武士の所為小あらんと。謀逆々々誘ふを斬り藤  
 吉郎大小笑てありりるが。程なく大宮父子を従せ。軍のこち返り  
 入道最期小なる响。強小信長ハ名將なり。備俺們小對面あり安穩

少の置はじゆはと。賢人よや。叫びながら。伐せらるるよしと。云はせしる。  
 信長を頼め。諸將も共小本下こそ思ひ。神小通せ。軍隊なまこと  
 舌を振ふて。驚感しつ。明智が浅慮を翻して。誅る族のまかりし。

大河内攻本下投謀池田為池田破構

蟻蜂が蟬を狙ふ小。琴音忽殺せとくめ。茶色隣門小入せり。  
 譬とく小本下が。神察徹底。大宮父子が害意を識こそ不思議  
 され。然れど小阿坂落城させし。先や國司の本城多。大河内(推  
 進登し。さて。夜の間に小諸軍を潰せし。め。曉は八月十八日。信長は七  
 萬余騎。大河内城の東あり。桂瀬山小うち登り。面圍背負。左路右路  
 四方に分殺せ。さるる。先東と先陣の大將。柴田權六。勝家。森三  
 左衛門可成。佐々内藏。助成。政不破。河内中。同彦三。山田之次。長官川

興二部。梶原平次部。丸毛倉庫頭。同之部。佐藤六左衛門。丹羽助。
 同源六部。依あり。南の方の菅野と世々。織田掃部助。稻葉伊孫。池田
 勝之部。丹羽五部。左衛門。和田新助。中島豊後守。同勝之部。蒲生
 右衛門。同忠之部。遠藤山城守。山岡兵衛守。水原流部。
 永田刑部。吉地。後河守。等。取。西。佐。久。間。右。衛。門。尉。
 同。嫡。子。左。衛。門。左。衛。門。飯。沼。助。平。市。橋。九。部。左。衛。門。氏。家。常。陸。守。安。藤。伊。賀。守。堀。
 本。大。膳。阿。岡。澄。路。守。同。部。五。部。之。橋。傳。左。衛。門。等。多。り。ま。つ。北。方。江。改。口。小。
 等。是。多。り。儲。ま。つ。柵。際。巡。檢。の。役。と。り。若。田。又。左。衛。門。湯。淺。甚。助。福。富。平。
 左。衛。門。川。尻。甚。助。生。助。甚。助。村。井。新。四。部。中。川。金。右。衛。門。生。物。小。助。長。谷。川。
 權。助。佐。藤。孫。八。部。荒。川。新。五。部。瀧。川。彦。右。衛。門。等。多。り。本。下。孫。吉。部。

秀吉の昨日阿坂の城攻小徹癩さうりも癩を負ひて養孫とて控軍
 とあり。弱く見え隊を援助せしむ。その分撥を定めたる。其。都。合。
 七。部。余。騎。環。々。と。し。て。圍。欄。一。六。如。何。多。る。要。屋。險。阻。亦。亦。色。保。ち。
 難。く。ぞ。見。入。り。り。然。れ。ども。當。城。さ。め。め。て。後。深。小。構。搦。と。近。國。之。双。の。
 勝。地。あり。七。の。山。尾。七。谷。小。構。り。て。若。と。大。河。内。と。名。づ。か。後。七。部。孫。八。部。
 と。い。ふ。東。の。大。河。内。の。川。深。く。西。も。長。徳。寺。に。燒。跡。あり。諸。城。中。の。國。
 司。一。族。種。代。の。諸。勇。士。之。方。余。人。種。威。を。強。く。嚴。守。と。し。て。進。兵。大。
 軍。あり。と。い。ふ。も。更。小。懸。り。氣。多。く。四。方。攻。固。め。て。急。懼。せ。ざる。六。宮。葛。藤。
 城。も。見。入。り。信。長。四。方。小。指。揮。を。傳。へ。總。軍。一。時。小。攻。極。て。喊。を。出。し。
 拳。ら。り。れ。ば。城。中。亦。も。同。く。声。を。合。せ。嗚。呼。と。り。の。管。八。山。小。懸。り。
 奮。一。て。悔。し。き。と。謂。ぶ。ふ。と。視。る。際。小。東。西。南。亦。上。り。手。銃。を。放。り。こ。雨。

最百千並此雷の轟地小墮る不見あり。城中もまた劣らじと視て貯  
 置りりたる大木大石を吹落し。茲を号途と拒抗せり。攻る尾濠乃  
 勇猛士防ぐハ勢南に忠義士あり。通小生死を顧む。烈火とありハ揮  
 きこらむぞ。他軍自軍の戦死蒙概夥しくありと云ふも。義名を重んず  
 命を殺んと進むをりて皆と死す。退くことを耻じられバ當日も夕  
 哉ゆくと云ふも。勝敗更小見分るを。進ま疲れて率退けば。城も  
 まく射間賊を誓。霎時窮む休息を。信長這態を問はし。進ま  
 多く傷ひしを。大小愁くおぼしむ。本下藤吉郎秀吉ハ微癩なぐりも  
 癩と圓たれば。保書せよと攻隊の内へ加らむと遊軍をなす。至色し  
 を本下壁率の輝小あり。今天の軍法四方の攻口。戦様の別腫くら。  
 防衛法。曉曉と巡見し。其方便を考ふる小。城を殊小強られ。尋

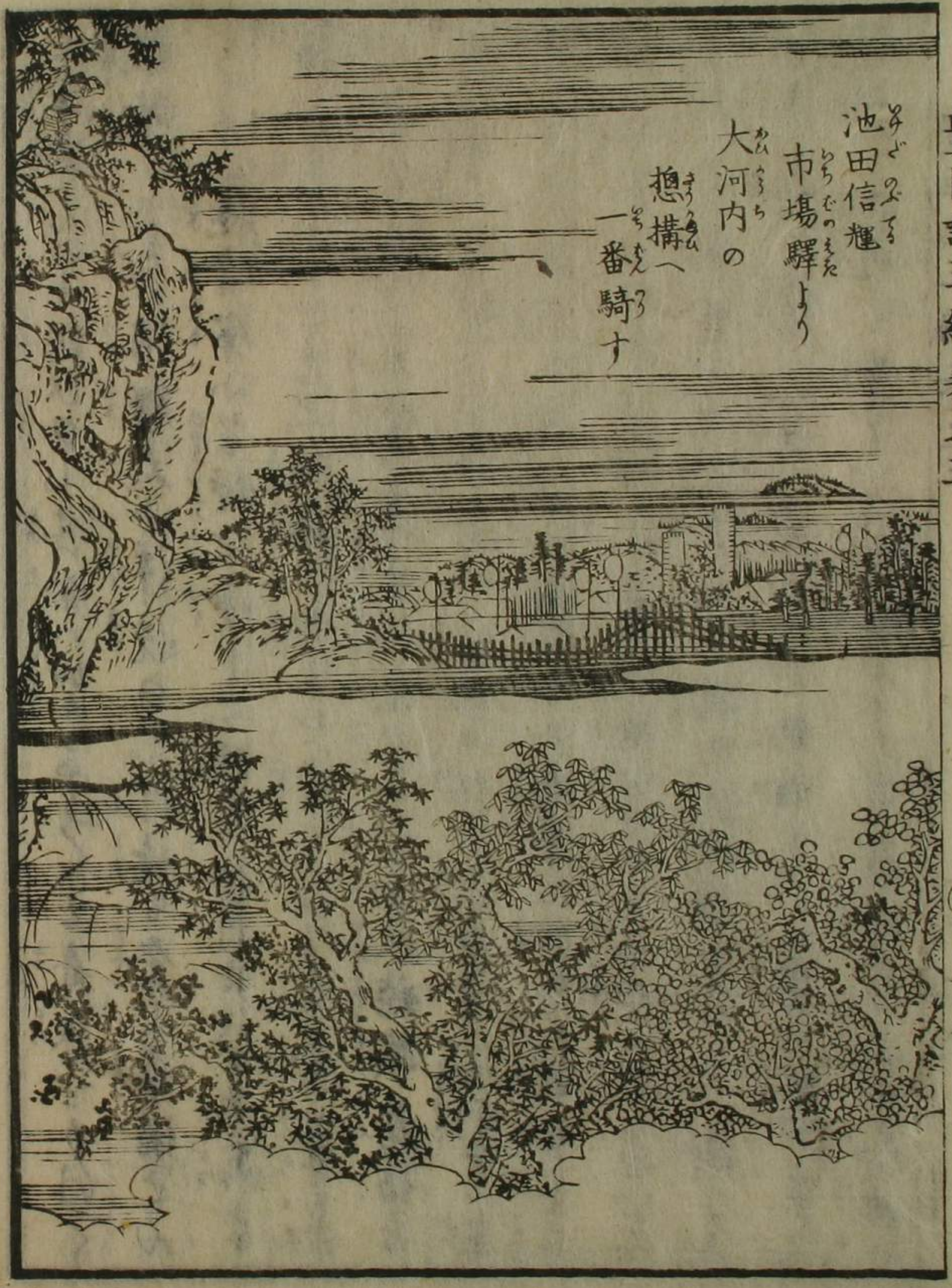
常の軍小くハ自急死を士を傷ふのこして。容易落城を登くらば。まが  
 総構を破てのち。再び工更をなす。とて本陣へ参上。密小信長へ云  
 状せし。若小も大小愁る機会あり。あまを落城せしむ。本  
 下あらむハ有ま。と視ておがしゆされし。秀吉よりハ指揮をなす。と  
 今付らむ。小より。藤吉郎。津謝總構を破る工更を按トける。當  
 城の四方ハ隅とも小。津泊。峻祖の坂路小く。登る小難く。小島熱々  
 地理を考ふる小。南の方龍藏庵坂の一方の。所破る小便あり。と視沈  
 ころ。所あま。頻々。遠方ハ魁降の大將。池田勝之。陣小の。り  
 信。懸小。對面。情々。地小。昔々。細る。や。當城。殊小。堅。牢。ある。こと  
 鐵壁小も。猶勝る。より。急小ハ。攻臨を。べ。とも。見。へ。む。ま。し。な。が。ら。方。術  
 どの。つて。惣。構。を。棄。れ。遠。方。より。鹿。垣。を。結。遠。し。城。より。夜。段。の。み。ら

ざらやう小岳夜きびしく要領を。姑く軍を止え在らば城中  
 次第小退屋して。うらむを内裏をせむべし。よし惣構を、素取  
 陣。容易ならざる事ぞし。是下備方僅某が、意を所小退これ  
 一撃力なり。至ひなば一番。素此功名疑ひあらじ。南一方破るに、余  
 の。之方も續ひて破る人。然らば遠方の撃力の大功随一ありぬるを返  
 答いふ小と密語を。信輝大小秋続。是こそ望むところなり。稀  
 くバ總構を破る方術を教らる。是と只管こそと。所をせし。藤吉野  
 告て謂やう。是下の攻口。能藏庵坂を南。一旦は。市場の驛といへ  
 あり。是地最も高なり。城は防所。の所を。眼小視流を絶不也  
 闇夜を計る市場驛を弛通り。それより。眼小進。行バ城中防  
 禦の。士軍。うし後の。險。胆小心。よく。踏止る。陣。偶ひ。二九當

て率退んこと疑ひ。其余の如く。うらむと。奇密を。ゆり  
 教指。一。信輝。大小。秋続。是。所。時。も。登。く。準備。せん  
 こと。も。後。者。軍。小。公。糧。を。喫。も。頃。も。八月。廿。八。日。丑。満。不  
 夜。此。月。も。な。け。き。と。坡。路。の。周。き。を。事。も。せ。む。土。倉。四。所。を。満  
 斤。桐。守。た。束。八。本。也。右。第。門。外。道。五。百。余。人。能。藏。庵。坂。は  
 陣。を。脱。出。志。の。び。ぐ。小。推。上。り。て。市場。の。驛。小。近。れ。る。心。利。を。名  
 士。と。り。て。敵。陣。の。曉。暎。を。窺。も。る。小。遠。方。を。守。る。大。將。日。置。大  
 膳。宛。家。木。主。水。其。勢。一。千。五。百。余。騎。ゆ。ぎ。も。武。勇。の。者。ら。ね。とも  
 今朝。より。黄昏。まで。終。日。の。軍。小。疲。果。大。將。帷。幕。を。これ。能。藏。も。六  
 駿。車。の。衆。を。枕。と。り。て。前後。も。志。を。熟。睡。せ。り。と。池。田。の。細。水。これ。を  
 沈。視。し。走。返。く。ま。り。し。信。輝。か。り。を。雀。躍。す。後。小。天。の。興。ふ



池田信輝  
市場驛より  
大河内の  
惣構へ  
一番騎す



る响あり。面々粉骨せらるるよと。就めとげし進まらる。柵際をく  
 るるとむとく。勝之部指揮せり。二百人の射をせり。たの  
 先一伍連へ。備へ後。小隊馬武者二百騎響せり。ゆるて勤さを  
 音号せり。なるふぞ。二百余人一隊ふり。像く起。露れ奉下り  
 小柵の中へ。火着せ射。驚ること。暴雨の如し。遠東西向。番を軍  
 慌張き目せ醒。顔せり。げて見く。あまもや柵内。小火移り  
 て。遠形下り。燃焼す。敵を柵際まで進来りて。喊せ。一吐小揚  
 りし。うぐ。をい。敵こそ近き。疾出合と。呼も。も。糧復起  
 眠溺。眼小。陰一條せ。二人三人。こそ。遣り。と。把着て。争ふ。あま  
 太刀。小刀。注。鞋。やら。柄。やら。分もせ。この。ま。と。子。足。を。刺。も。あり。慌。忙  
 き。途。惑。ふ。所。せ。池。田。比。呂。士。五。百。余。騎。并。小。柵。木。を。擊。破。り。我

一先と騎入。縦横と。敵小。掘起。斬伏。矢。旋。里。々。か。に。一。十  
 五。百。注。城。名。軍。不。意。を。敵。ま。て。他。軍。自。軍。の。差。別。も。更。小。身。決  
 め。得。を。火。矢。注。先。里。と。援。便。し。く。防。ぐ。と。ま。ま。と。池。田。の。呂。士。電  
 光。石。火。の。飄。散。ど。と。烈。奈。激。弛。く。る。か。ど。小。い。ろ。も。大。勢。の。ゆ。り。小  
 か。り。も。ま。心。聴。して。踏。を。免。さ。く。這。場。の。防。戦。う。み。ひ。ぐ。し。と。遠。足  
 出。して。迅。走。る。遠。隊。の。守。將。日。置。大。膳。家。本。主。水。の。西。人。を。破。ら。ま。し  
 と。懸。斬。せ。り。激。音。く。進。ま。小。強。向。ふ。と。池。田。の。老。黨。土。倉。山。部。を。捕  
 獲。せ。獲。る。家。本。小。敵。對。主。水。も。圍。あ。る。勇。士。あり。太。刀。うち。奮。て。こ。ろ。合  
 戦。ふ。所。せ。土。倉。が。明。軍。八。本。笹。右。衛。門。横。際。より。正。一。門。地。小。柵。を。破。る。ま  
 水。勇。猛。あり。と。り。こ。も。西。士。小。敵。を。こ。と。あり。と。二。九。さ。し。て。死。退。け。バ  
 土。倉。も。八。本。も。こ。ま。を。打。棄。殘。る。呂。士。を。攻。崩。し。烈。々。競。ひ。蒐。る。と。ん。て

龍藏庵の防柵破きて  
家木主の水血戦



日置大信自燒小指揮を。致向とんとりたるが。池田信輝が一隊の  
 勢。左に末陣を龍蛇の像。善地小進むせ。賄りて。遠方軍も大車  
 ひまじも。倘坡口を塞ぎまての邊投こと。慥之うを。早く二九小邊ひて  
 よく。少の然とと思案。一。柔馬を返。池田は。士悉く。続  
 進ん。接起。小難。小。惣構を。騎。隊。達。固  
 ける。

坂井父子騎取小方惣構。属楠討夜殿

人眠。天地亡ぶ。と。荒。小似。と。方。日置。家。依。の。夜殿  
 小破。駿。を。漫。小。あ。さ。る。一。然。池田。五。百。余。騎  
 惣構。小。隊。固。免。し。頃。夜。も。稍。曉。陸。離。東  
 北。西。の。進。池田。南。の。惣構。攻。破。し。と。听。も。意。次。一。や

俺。們。と。も。進。時。一。同。小。推。進。せ。来。し。小。何。と。池田。小。後。れ  
 一。と。速。相。投。る。養。枝。と。せ。進。め。と。呼。り。大。將。は。指。揮。を。待  
 べ。こ。二。方。同。時。小。人。數。と。操。中。惣構。を。擊。破。ら。ん。と。喚。叫。ん。で。持。き  
 々。城。を。隨。分。防。ぐ。と。い。ふ。も。既。小。南。方。も。破。是。進。免。満。せ。小。よ  
 了。防。ぐ。力。も。お。の。づ。と。撓。心。慥。と。私。を。四。夜。痛。小。り。て。見。へ。る。と。違。兵  
 い。よ。く。精。神。を。振。ひ。接。起。攻。る。中。小。も。北。方。の。勇。士。坂。井。右。近。廣。坂  
 口。一。番。小。騎。投。四。方。を。拵。り。戦。ふ。遠。方。は。大。將。を。屋。尾。與。右。衛。門  
 水。着。刑。部。此。と。途。と。防。ぐ。と。い。ふ。も。進。も。後。々。ら。ぬ。大。將。名。小。員  
 坂。井。父。子。も。殊。小。備。男。久。茂。成。重。正。射。小。進。ん。で。接。起。下。城。を  
 方。僅。も。防。ぎ。ぬ。右。側。左。顧。小。散。乱。二。の。丸。當。て。敗。走。せ。り。鳥。屋  
 尾。水。谷。大。小。怒。り。怯。ま。自。軍。の。奉。止。り。耶。軍。を。斬。こ。そ。な。と。り。の。か



是と断止つて戦ふ。坂井久藏潜合せ。水谷刑部小堀と薙る刑  
 部莞尔とうち笑ひ。柔輦小児が拳動くる。遠濠津を喰せしこれん  
 と突出するを事ともせむ。水谷が陰を刎墜す。只一擧と勢ひ猛く  
 激出する坂井が陰を突過つて勝る。石小喝止と突當る。陰  
 け尖る。枝と折る。水谷得ると太刀ぬれ。久藏目當り撃て  
 薙る。心得ると馬を騎下。身をうらむ。濠津小舟を捕放ち。唯一段小と  
 弛弛と水谷が舟黨を視る。莞尔と人の顔もんと。一回小舟  
 揺ると突薙る。右邊攻尚遠方小舟を。馬を繋らせし。水谷  
 が部黨を四角八面小斬伏く。憤怒と露く。弦旋る。水谷之徒  
 ぬらぬらあらん。隙窺ふく。刃を。二の九當り連投する。坂井之この  
 跡を攻入らんと。これども。坂井涙も。難不なる。人。續く。自軍も味

され。一息絶く。互。同小舟と。水谷新舟。舟を。庫領。篠田中  
 條。織田が。族軍。退く。大勢。騎。投。く。小舟。既。小。破。る。西。東。の。進。意  
 の。勢。も。こ。も。小。舟。ら。む。攻。る。濠。津。小。城。中。も。ち。く。惣。構。を。惣。構。を。并  
 て。刃。死。運。と。殺。下。と。守。り。て。防。ぐ。ん。ど。も。進。る。此。も。濠。津。を。不。敵  
 波。の。漢。舟。と。あ。ら。む。が。像。く。競。薙。く。攻。起。る。唯一。捲。小。崩。却。り。皆  
 二の九へ連投する。去る小舟。依る。東西。南。小。一。波。小。吐。と。勝。喊。を。あ。げ  
 總構とそ。系。取。ら。む。這。由。小。陣。へ。言。伏。せ。し。信。長。大。小。脱。び。と  
 多。ひ。昨。日。の。當。城。を。攻。ん。ど。多。く。は。益。を。傷。ひ。小。今。日。の。本。下。が。勢  
 略。小。頼。く。南。津。破。を。紐。也。一。遂。小。之。方。と。一。飲。小。攻。抜。つ。事。は。地  
 土。も。た。小。も。右。小。も。本。下。の。城。攻。小。妙。を。得。る。と。深。く。賞。美。す。一  
 玉。ひ。惣。構。の。ち。小。鹿。垣。を。城。小。向。く。結。せ。る。一。城。中。の。通。路。を

坂井久藏  
廣坂口  
一番騎  
勇戦



といふ。我小こせ八見へりるも。延とも原東軍城の準備を方  
 のらごま。六名種夫九遣へりる。水は道もま。自由ありのりる。軍  
 城をせ。とて。周窮をさ。死やうへりる。と。後援の頼援も。只  
 累代の忠臣。我士の。城を堅固。小守り。進。大軍ありとい。九  
 四方純壁の像。要崖を。徒小膳。仰の。小。攻。便。を。見。り。り。を  
 二。八。田。の。城。七。舟。舟。正。具。八。大。河。内。の。境。を。所。を。と  
 閑。者。を。容。さ。せ。り。る。と。小。織。田。の。軍。勢。七。萬。余。騎。大。河。内。の。本。城。を  
 圍。む。惣。構。を。宗。而。く。嚴。く。鹿。垣。を。結。せ。か。く。近。攻。極。さ。り。入。り  
 邊。小。藩。城。を。死。り。け。り。と。急。く。登。さ。小。も。あ。ら。じ。と。て。軍。を。止。ら。せ。徒。小  
 四。五。日。を。過。り。し。定。楚。小。若。を。所。く。飲。び。さ。ら。ば。奇。計。を。廻。り。して。織  
 田。勢。の。大。軍。小。一。池。吹。せ。く。と。と。ん。を。り。の。と。と。大。河。内。の。東。川。小。藩。を。船。に

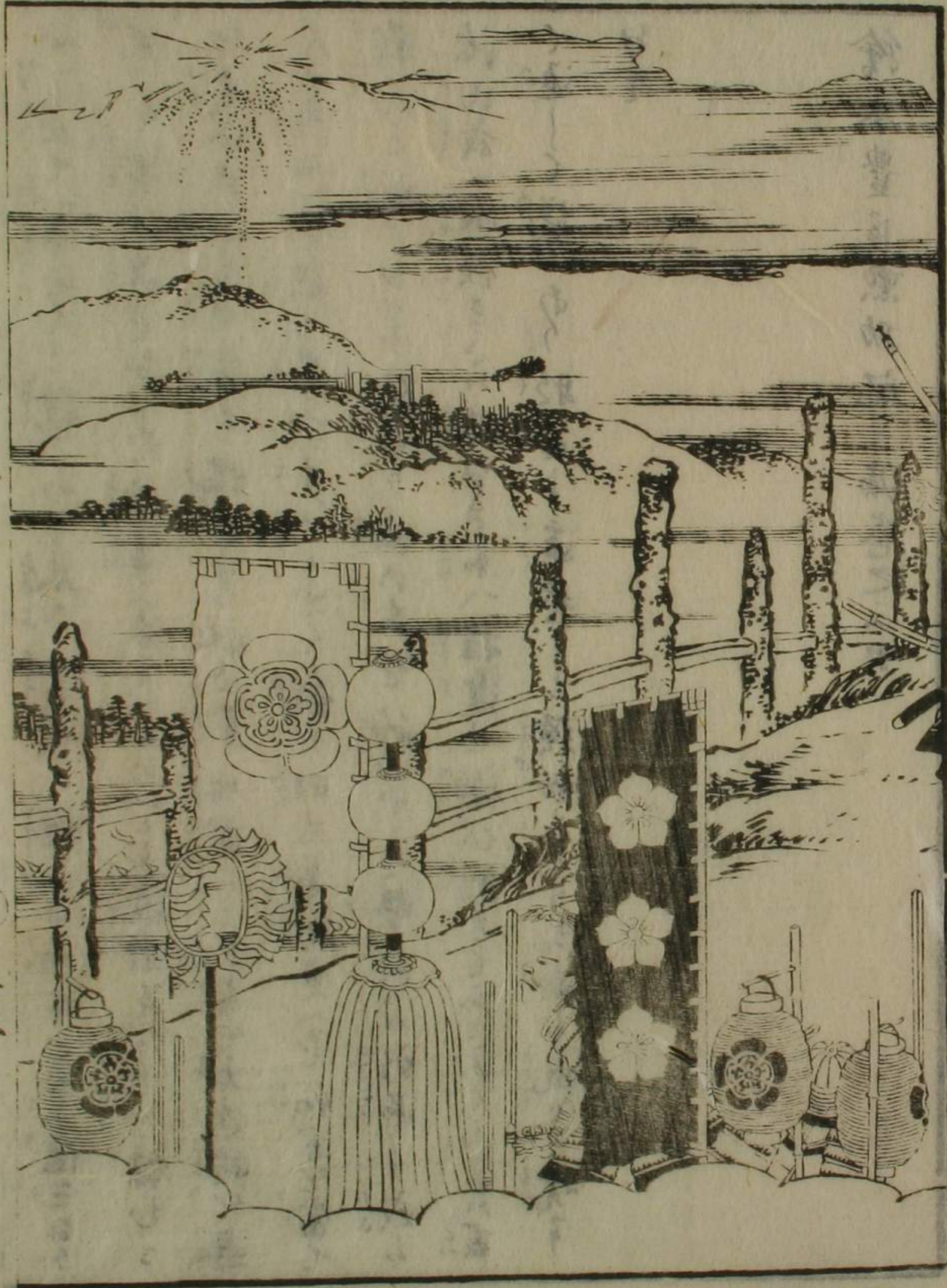
といふ所あり。這城中。六國司の忠臣。安保安居。安住。新九郎と  
 い。り。り。の。一。千。余。騎。小。對。敵。中。は。り。彼。二。勇。士。小。一。方。を。擊。せ。我。亦  
 其。尾。を。毀。べ。し。と。其。計。略。を。さ。る。ぐ。に。工。更。し。楠。が。腹。心。松。本。孫。四  
 郎。と。い。ふ。者。を。使。こ。し。謀。計。を。申。合。船。江。の。城。へ。遣。り。し。彌。四。郎  
 情。小。彼。地。小。河。で。安。保。安。居。小。對。面。一。書。翰。を。出。し。て。密。謀。計。次。牙  
 を。具。小。演。言。し。は。は。と。六。兩。人。大。小。款。號。を。我。侮。も。預。て。此。日。來。夜。毀。な。じ。て  
 進。出。を。一。怖。驚。し。本。城。小。嚴。守。門。々。の。勇。卒。を。増。ん。と。か。り。ひ。り。か。と。も  
 然。べ。き。奇。術。を。得。ざ。り。し。ゆ。へ。點。止。し。し。が。楠。正。具。斯。量。の。補。助。あ。り。り。へ。鹿  
 小。翼。化。生。ぜ。り。像。し。と。諾。せ。し。由。の。返。辭。を。松。井。小。傳。へ。八。田。へ。送。り  
 願。後。楠。が。奇。計。小。信。せ。城。下。の。河。へ。數。十。艘。の。船。を。送。り。て。是。小。奇。計。を  
 こと。と。ま。せ。く。大。河。内。の。門。使。ひ。小。信。長。の。本。陣。桂。嶺。山。を。新。築。し。ん。と。さ。り

体せり。安保安岳の両將の還急七百有余とせり。密小用道を経  
 巡りて。西の方より段て發進急と知さんと計をたり。遠征の準備  
 そのひろとバ九月五日の蚤天より。那條の船様七川（注）へ急發さん  
 とまされば。安小遠を織田家の斥候此所見を怪しくかひひ疾  
 本陣へ注伸を。織田敵とせし。不敵の奴軍が挙動を急  
 かり。那志の殊勝なる小面。尙進来たる一個も餘さを段扱やとて。  
 旗本純忠を率分。河傍の殺なく小怪伏させ。殿后攻口の諸將  
 倂へ指揮せ傳へ玉ふゆりの。縱令敵急本陣へ斬獲する事ありと  
 のふとも。決してこまを救ふ。既を各持はく。堅固小守を以て。  
 急りたると洵流し。嚴備小備く候といふとも。敵一人も進来らざ  
 時小明智先秀の敵の奇急と大急悟を。信長小まうしりやう。是こそ

敵の備兵をらめ。船路より進る俣とせ。自方小防衛の準備をなさせ  
 終日急士の急を極し。疲らして後陸路より。不意小夜段を。はんず練  
 るのれらるべし。密内知る敵軍をれば。河用心こそ肝要なき。と云はる  
 小信長も實もとむ。ゆきとる。陣中一回洵急を。夜段の準備  
 なきを玉ふ。本下秀吉と周より。密地小本陣（急）と。敵段の河用心  
 を急出されはこと。敵の急計小掛らせ玉は。敵の疎誤を窺ひ候ふ  
 必竟疎を攻んとせ。諸將の陣布を攻んたれ。敵急と大將の本陣小  
 急の急を急とせ。實の河陣小向ふあら。敵小も謀とあるべ  
 り。急は肝賢河急。敵の機小周り急小急。河急略あるべ。急  
 ト小只管諸將の陣へ。自分く急を。嚴重小守。急最烈。河  
 指揮ありと急。這急と。河急陣を。急急といふ本急。急

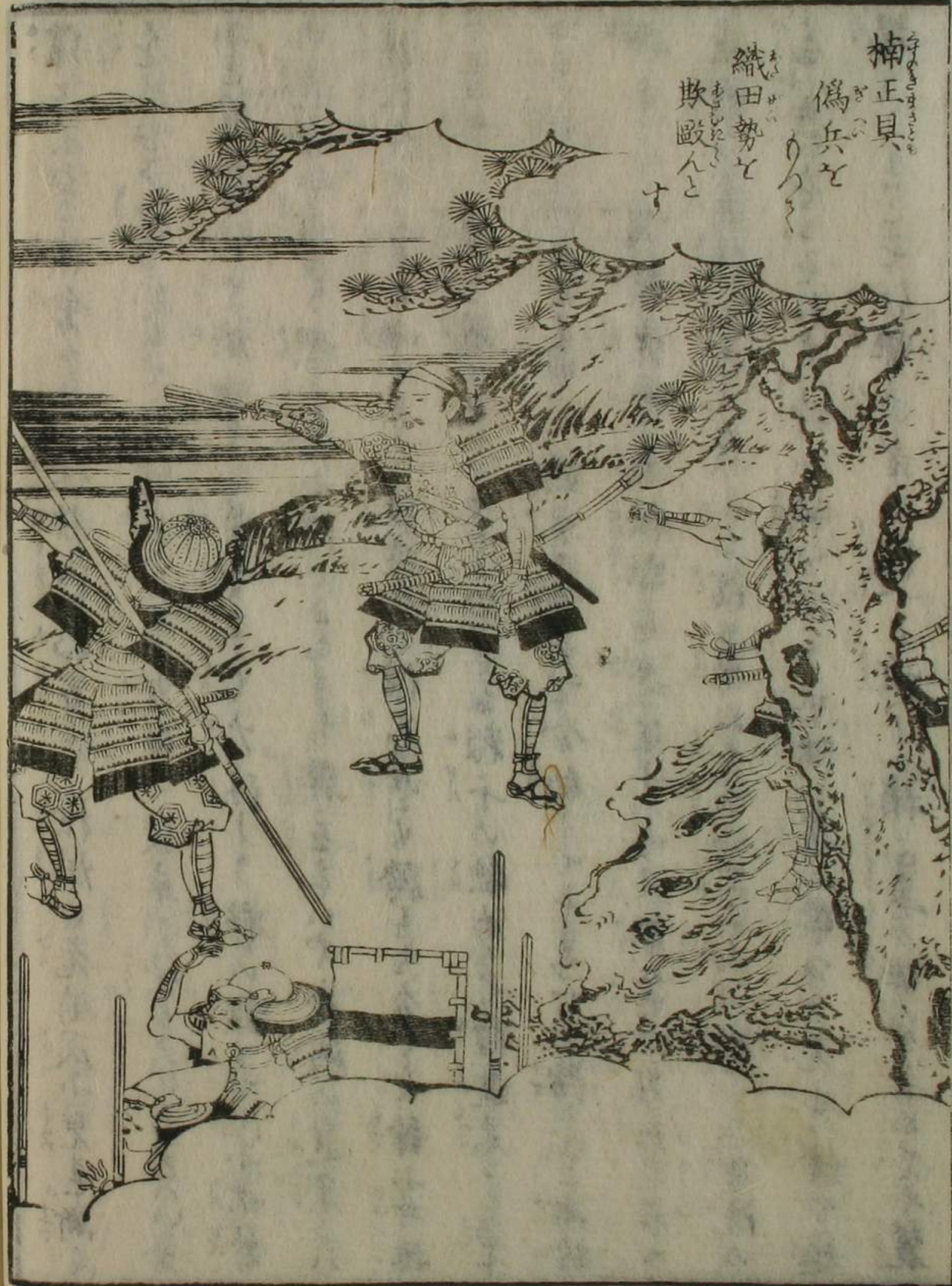
頭小船と流る身を見せくそ体と頭を事の比に虚實變化の  
 軍の平日あり。此を攻んとく彼を撃つ南を毀んとく小進別  
 て別や河本陣あり。名譽は勇士多く在て。鼓音備する陣と敵も知  
 ず。ゆくや船に小瀬あり。名士も。一千余人小よも過まじ。其軍の  
 うもせり。敵て出るは知らず。五六百より多くあらじ。其計なる軍勢  
 あく。いふ小瀬く。播磨とて。新の河陣の堅固なる。容易に敵のなす  
 ぞ。些も怖る事ならぬ。遠遭の政企なり。しに。船中の軍のさ小あり。し  
 必定別城小謀士ありて。力と勤せしり。けり。よく。河思慮を願ふ。し  
 や。と。流ると信長所し。強みりとも。能受。た。多。ひ。時。小。斯。と。洵。波。さ  
 是。脱。不。當。夜。も。寅。の。刻。曉。を。く。ぬ。るとい。へ。とも。夜。敵。の。軍。久。更。小。なく。最  
 穩。小。舟。へ。く。り。る。は。お。ま。い。い。ふ。と。陣。々。小。侍。設。る。名。の。膽。氣。備。し。自。ら。

後。さ。ち。なる。機。會。々。ら。小。桂。瀬。山。の。形。方。より。松。柁。の。光。を。一。小。見。是。漸。く  
 とく。なる。返。も。知ら。で。座。懸。を。さ。り。し。が。行。候。の。發。卒。小。驚。き。れ。あ。ま。い。い。う  
 小。との。ふ。ふ。と。に。も。炬。次。才。小。員。重。き。そ。火。法。より。夥。の。旗。山。風。小。吹。聲。  
 せ。遠。き。小。所。あり。懼。を。鼓。小。陣。く。さ。ち。ま。ち。發。立。ま。り。や。夜。敵。の。進。来。る。ハ  
 迷。出。合。や。人。を。と。呼。ま。り。く。馳。迎。き。と。信。長。些。も。發。立。ま。り。を。靜。小。井。權  
 へ。蒐。揚。り。遠。を。眺。と。見。さ。ふ。小。い。り。さ。る。殺。す。の。敵。あり。て。推。進。来。ると。覺。え  
 たり。然。バ。約束。せ。し。如。く。旗。本。の。名。士。を。分。給。して。そ。ま。く。と。防。が。んと。河。指  
 揮。ある。と。明。智。光。秀。遠。松。柁。を。身。當。ふ。と。大。勢。進。る。氣。色。の。こ。り  
 灰。殿。を。遠。外。小。あり。ぬ。べ。と。智。も。果。ぬ。と。不。右。の。山。は。禁。より。名。流。の  
 名。一。數。を。さ。り。それ。と。一時。小。威。を。つ。り。水。陣。へ。進。る。勢。あり。光。秀。諸。を。起  
 揚。り。こ。ま。こ。そ。伊。勢。武。者。の。隨。一。と。所。へ。楠。正。具。が。勢。あり。ら。め。ん。や。麓



貞正己三編卷之三

十八



楠正具  
偽兵と  
織田勢と  
欺敵人と

貞正己三編卷之三

十七

小一立て一軍せんと疑うるを本下要時と推止め両方とも小備をあり  
 決して實に進まざるを哀をなすかたに退散をせしと諫むる  
 也更小耳小も所容を惕切なる壯士軍備方らんと亦て出夜殿を遮  
 んと勇めけと款と思ふに声のこもく影も形も曷向見へを何方を當て  
 戦んと頼りなきが馳りて喊の声を的心して撃向へが仍過し或は  
 源田或の睡徑まゝに踏なきをへ推進せ願ひ例きてふかめくあまの取  
 て返して懐るあり那言上遠蒼と發動をすも救を風々と焼り  
 けを

繪本豊臣勲功記三編卷之三終

